

日本の印章の歴史と デジタル化への道

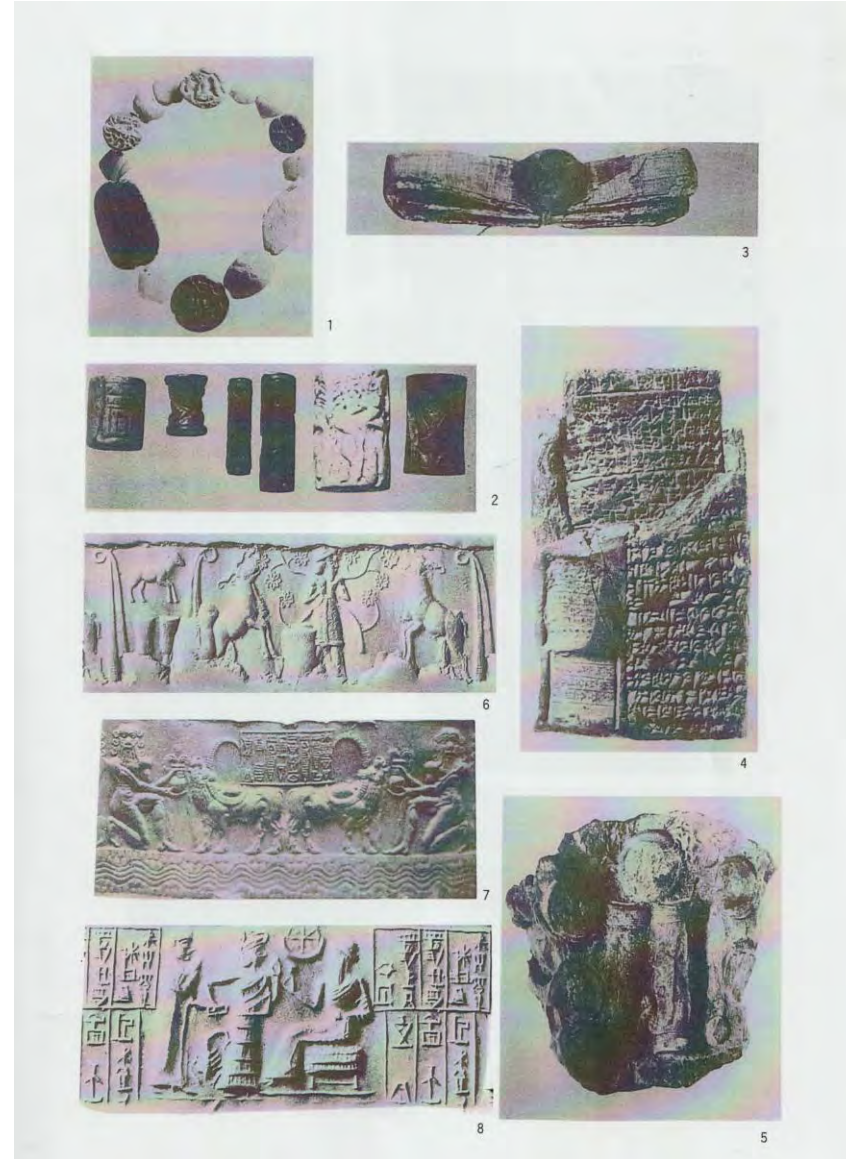
大阪芸術大学客員教授

文学博士 久米雅雄

2021年9月27日

Zoomウェビナー

印章の起源とその役割: スタンプと円筒印章



日本に印章はどのように伝わり広まったか？



国宝金印「漢委奴国王」(57年 後漢時代)

考 上

考 古

金印^{きんいん}

印文「漢委奴国王」一顆

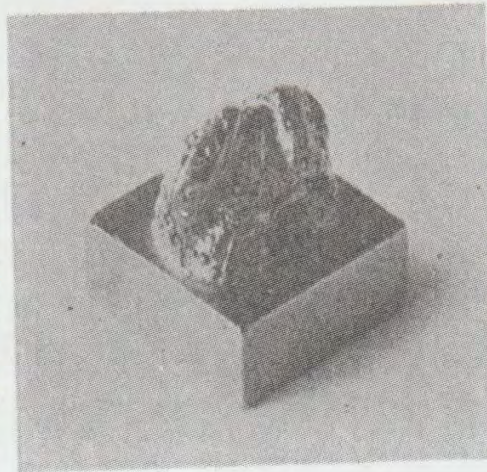
東京都 黒田長礼

印面方二・三六 高さ二・二四 上古

金製。印面が方形の刻印で、白文三行、初行は一字、

二・三行は各二字で「漢委奴国王」とある。書体は篆書^{てんしよ}。

蛇鈕^{だちゆう}で鈕孔が貫かれている。保存状態は完好である。この金印は、天明四年（一七八四）二月に福岡県糟屋郡志賀島村で農夫が田の溝さらいをしていた時、石の下から発見したと伝えられるもので、その遺跡がどのような種類のものであったかわからない。後漢書（中国南北朝時代、范曄撰）列伝第七十五、倭国の条には「建武中元二年（五七）に倭奴国奉貢朝賀す。使人自ら大夫と称す。」



倭国の極南界なり。光武賜うに印綬を以ってす」という記事があるが、この金印がその時のもの自体であるかどうか断定できないけれども、その形態は漢代の制に従い、この種の文献の伝えるところを裏書きする貴重な資料ということはできる。その訓^よみについてはなお定説をみない。

天皇御璽(法隆寺獻物帳 756年 奈良時代)



天皇御璽 印影(天平勝宝8年=756年)



日本古代の律令官私印(省・国・郡・私印)



花押(1)空海・藤原佐理・明尊など(平安時代)

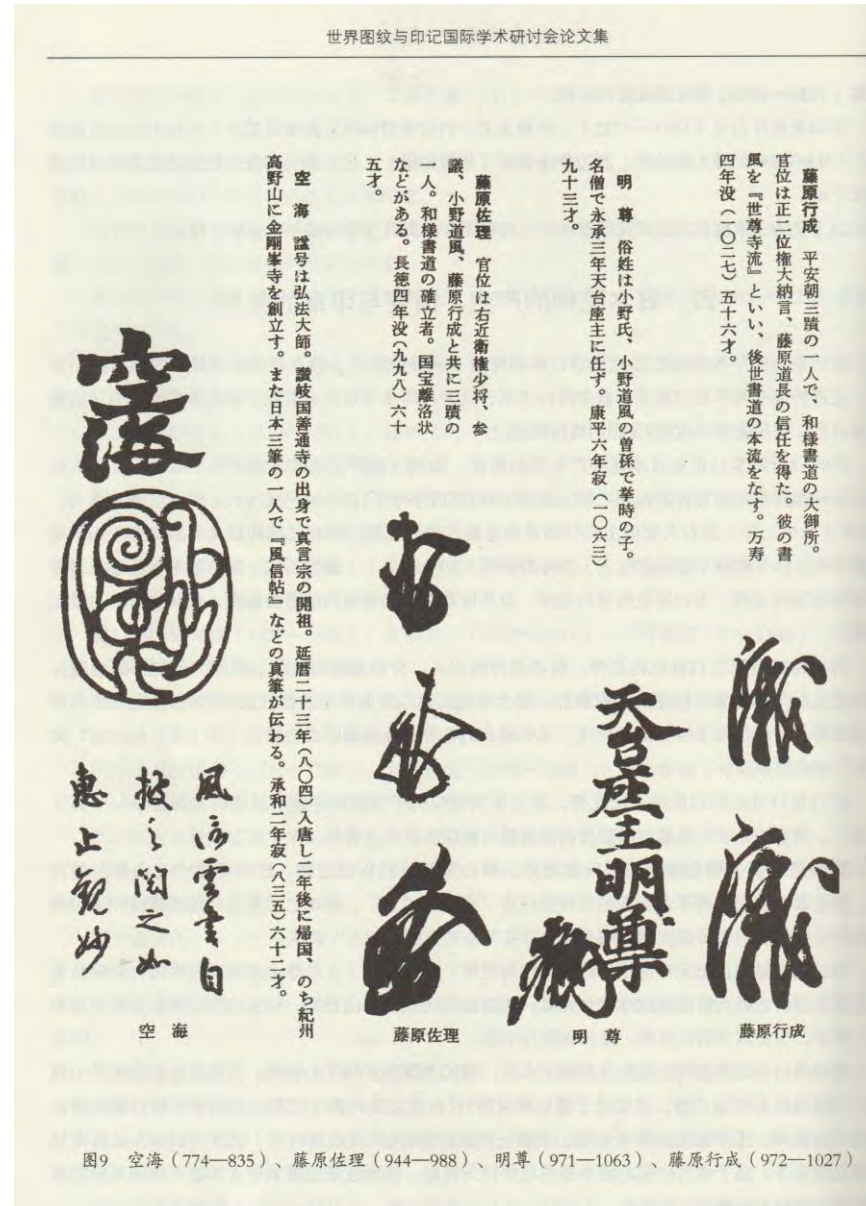
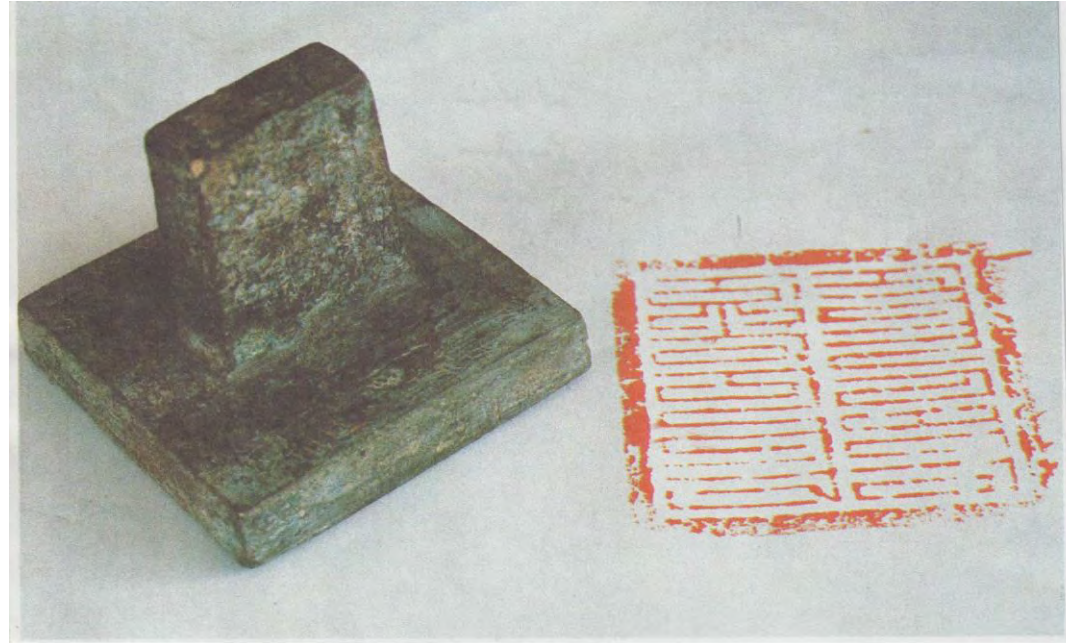


图9 空海(774—835)、藤原佐理(944—988)、明尊(971—1063)、藤原行成(972—1027)

花押(2)北条義政・時宗・仲時など(鎌倉時代)



長崎鷹島発見の元パスパ文字「管軍総把」印



大内氏館跡出土の花押型(滑石製)



花押(3)と印章 大内氏(南北朝・室町時代)



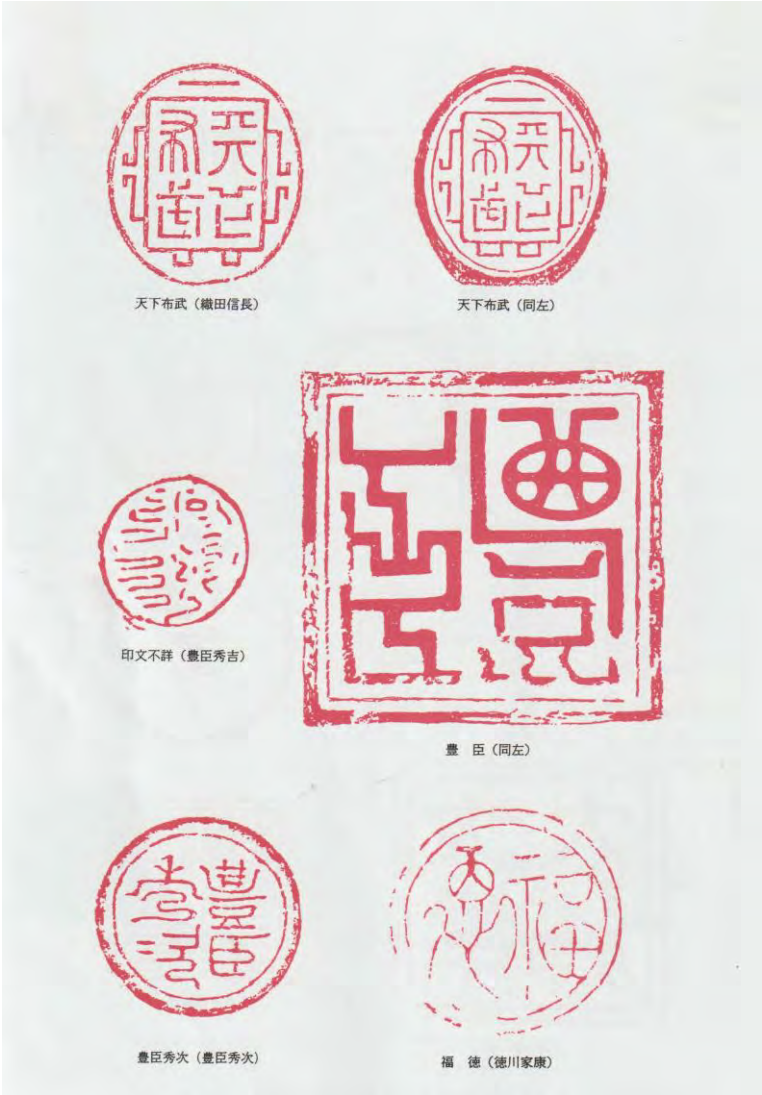
日本国王之印・通信符(日明朝勘合貿易印)



花押から花押型(はんこ:1486;1569年)へ



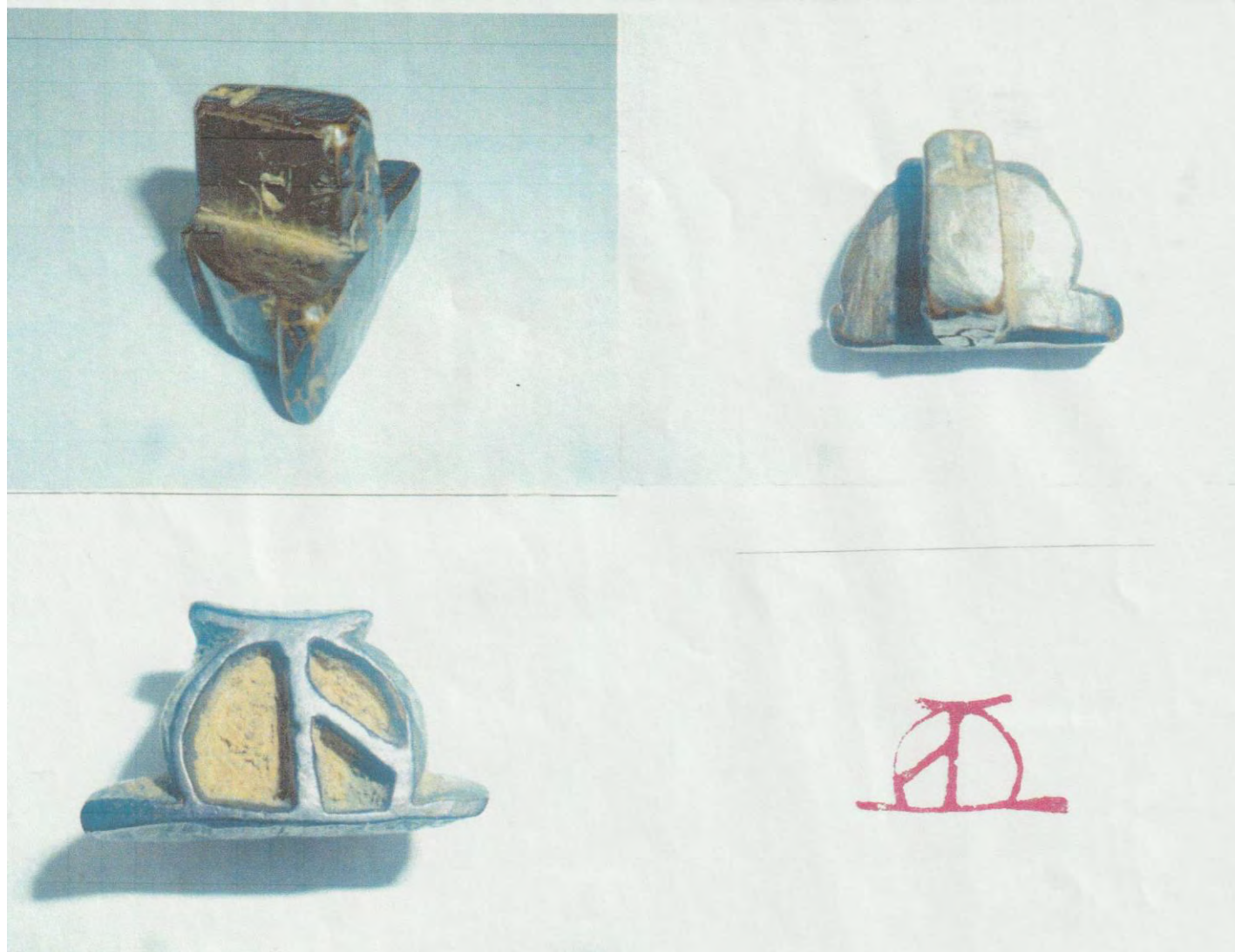
戦国大名の印章（織田・豊臣・徳川）



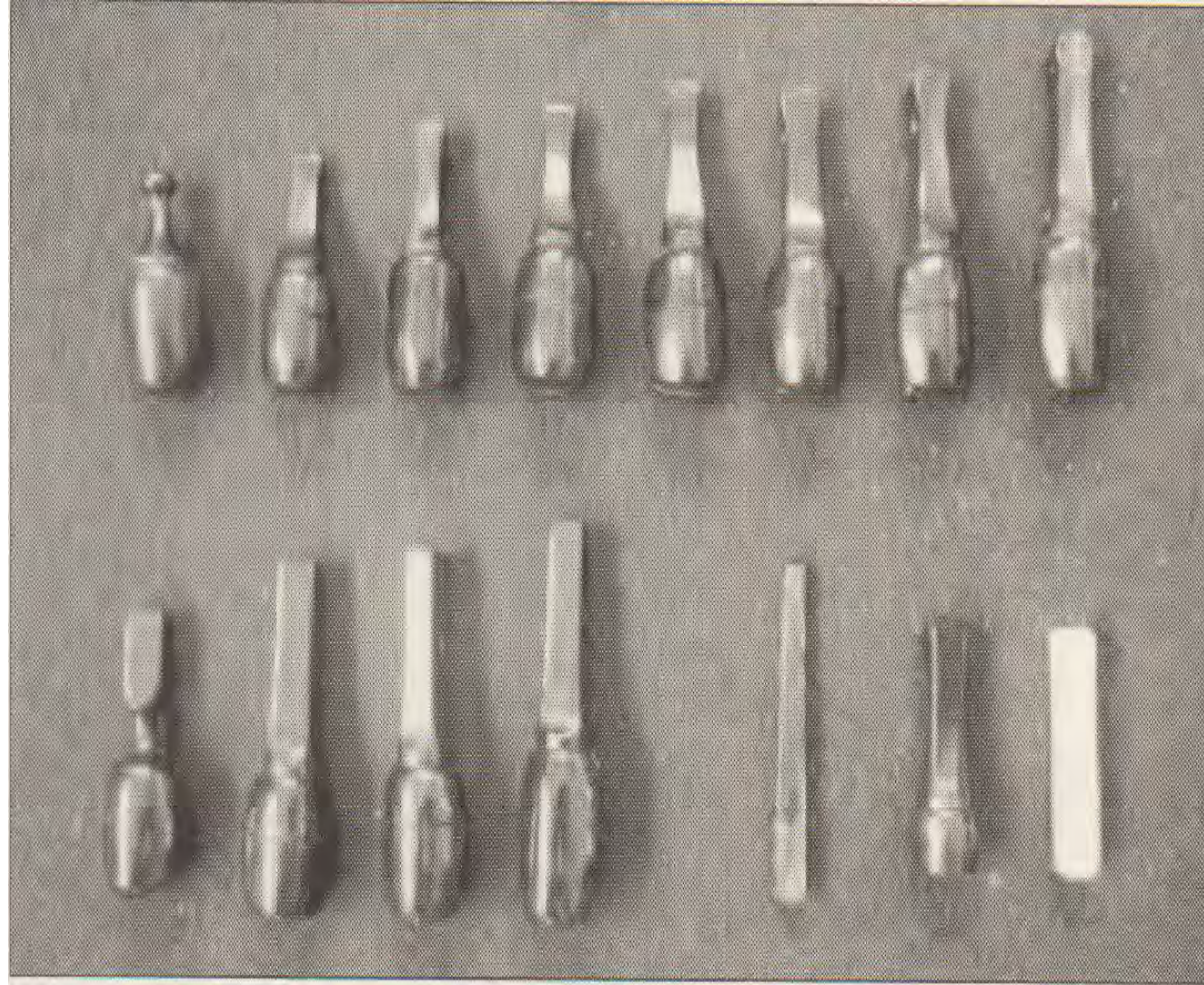
花押(4)と印章 徳川家康・秀忠・家光



江戸時代の花押型（錫安印章文化研究所蔵）



江戸時代のはんこ(実印・認印〔裏判〕)



日米修好通商条約批准の銀印(1857年)発見

33 社会 13版 2018年(平成30年)8月20日(月) 享月

日米修好通商条約結んだ印

1858年に結ばれた日米修好通商条約などに江戸幕府14代将軍徳川家茂の署名と共に押された幕府の公印「経文緯武」。この印章が約150年ぶりに、東京都内の徳川宗家の蔵で見つかった。幕府が開国をへて欧米との通商関係へと踏み込んだ歴史的な瞬間を刻んだ、その実物だ。

印は縦9・2センチ、横9・2センチの銀製で重さは2・7キログラム。所蔵する徳川記念財団(徳川恒孝理事長)によると、約1年半前、宗家の庭にあった蔵を取り壊した際に、蔵の一番奥から調度品を収める長持に入った状態で見つかった。

「海外航免許一件附録」などの史料によると、この印は1857年に幕府が篆刻家の益田香遠に作らせたもの。「経文緯武」という印面は「文を經にし、武を緯にす」と読み、「文武両道を兼ね備えた政治の理想的な姿」を表すとされる。

150年ぶり 徳川の蔵から発見

財団によると、日米、日英、日仏と58年に相次いで結ばれた修好通商条約の批准書(批准書作成は59年)と、デンマークとの「日本国」抹国修好通商及航海条約批准書(同67年)などに、家茂や15代将軍慶喜の署名に添えて押印されたことが分かっている。

財団の徳川家広理事は「外交文書の批准に使う独自の銀印をわざわざ作らせたことに、当時の日本の国家元首として、将軍が外交を自ら担うという強い意思を感じる」と話す。

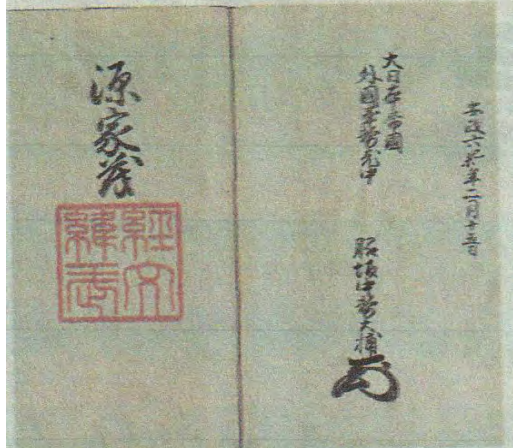
この印は、9月15〜30日に新潟県立歴史博物館で初公開される。

(編集委員・宮代栄一)



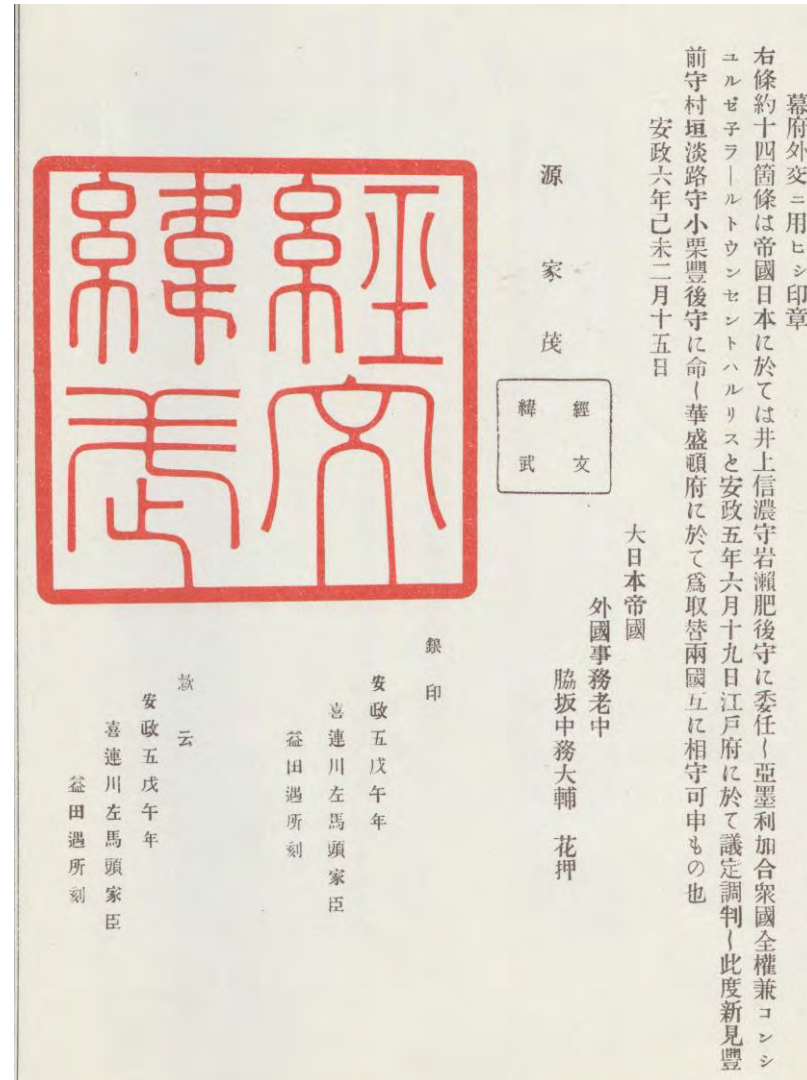
①「経文緯武」の文字が刻まれた印章(徳川記念財団提供)
②「日米修好通商条約批准書」に押された「経文緯武」の印(左側の朱印、米国立公文書館所蔵)

批准書(1859年)にある署名と捺印・花押

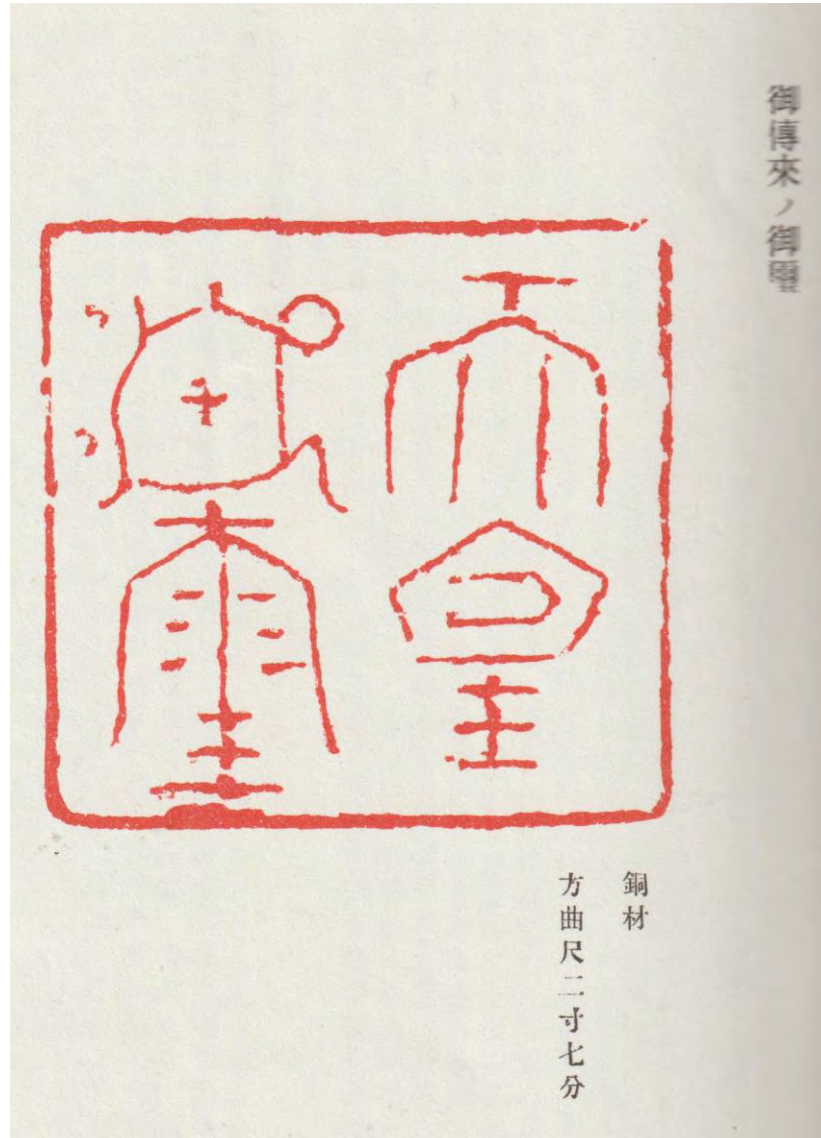


- ④「経文緯武」の文字が刻まれた印章(徳川記念財団提供)
- ⑤「日米修好通商条約批准書」に押された「経文緯武」の印(左側の朱印、米国立公文書館所蔵)

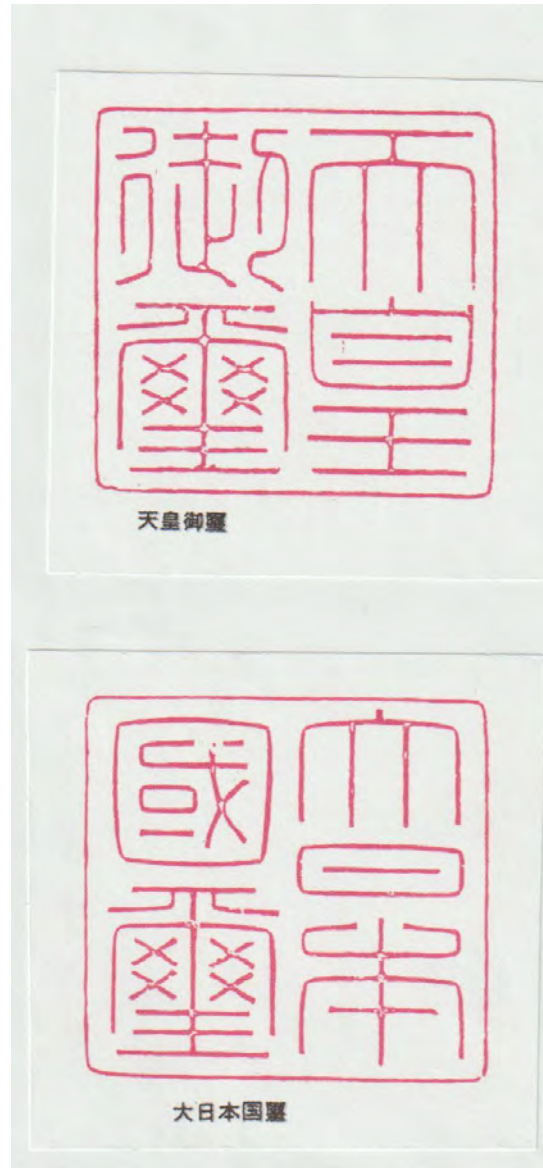
幕府外交に用いた源家茂「経文緯武」印



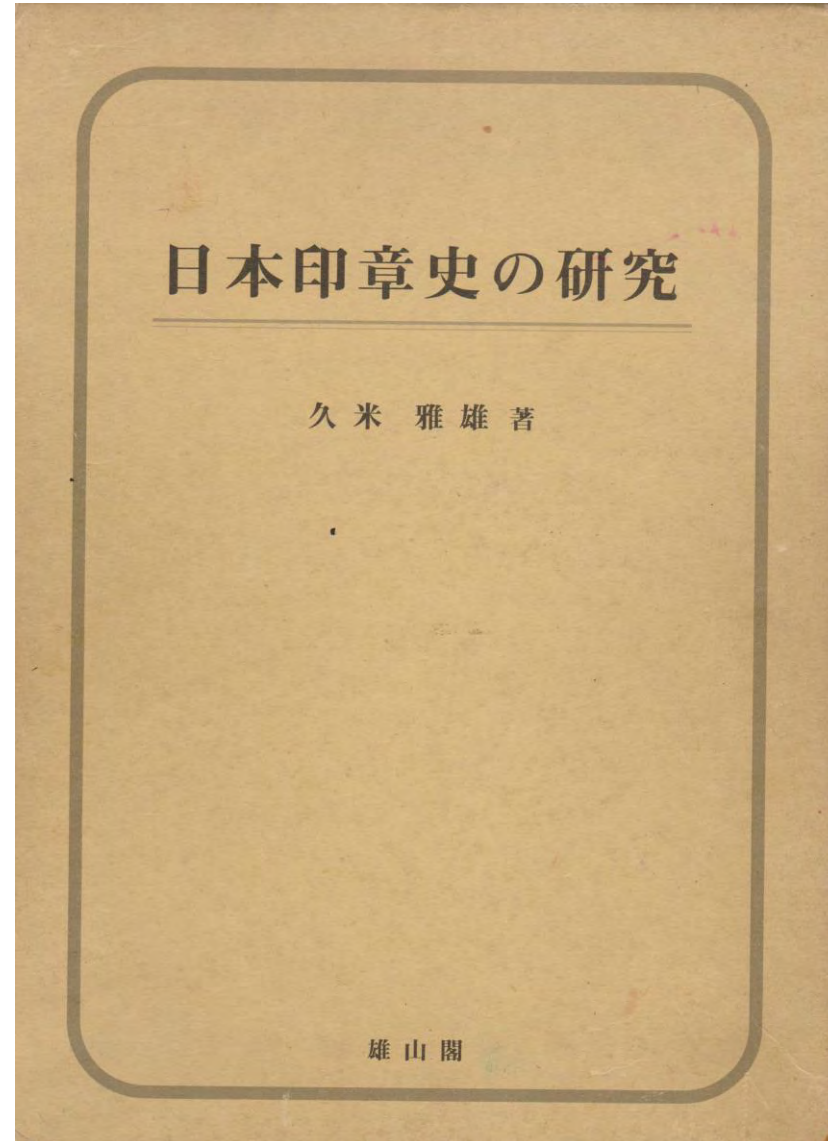
御傳來ノ御璽(銅璽)



明治7年(1874) 天皇御璽と大日本国璽



『日本印章史の研究』 雄山閣(2004年)



『はんこ』 法政大学出版局(2016年)



「日本の印章の歴史的役割と電子化への道」



印章の将来とデジタル化への道

1) 現政権の目標—デジタル社会の実現と無益な押印の廃止—

2) デジタル化は全ての印章の役割を否定し捨て去るものであるか？

3) 現在、できることがあるか？

4) デジタル化実現に伴うリスクは克服できるか？

補) デジタル庁創設(2021年9月1日)に伴うデジタル化総体メニューの提示？

印章のデジタル化にむけての基本設計と実施設計？

総務省第10回「自治体システム等標準化検討会」における「印鑑登録システムの標準仕様書」等についての到達点と課題？

完

ご清聴ありがとうございました